

# 廃案が国民の声

「生活保護法関連の法案を廃案に追い込み、来る参院選で審判を下そう」  
 国会の会期末が翌日に迫る中、全国生活と健康を守る会連合会（全生連）安形（あがた）義弘会長などは25日、国会前で座り込みをしました。

## 国会前で全生連



安形会長は、2法案の国会提出後、全国から寄せられた福祉事務所対応として、▽離婚した夫の両親のもとへ福祉事務所の照会が寄せられた▽「年金だけでは暮らせない」と生活保護申請後、年金不支給の決定が出された▽などを紹介。「厚労相などは法改悪しても『いままでと窓口の対応は変わらない』と答弁しているが、いままでもやっていた悪い対応にお墨付きを与える法案だ。廃案に追い込み、参院選の争点にしていこう」と呼びかけました。

千葉県にある「船橋市北部在宅介護支援センター」の関山美子センター長は「権利としての生活保護をなきものにしようとするこ

は許されない」と語気を強めました。  
 全生連の岩橋祐治常任幹事は「高齢者は年金を切り下げられる。限定正社員制度が導入されれば労働者の待遇は悪化する。来年4月からは消費税が8%に上げられる。国民全体

で貧困がすすむ中で、安倍内閣は生活保護の改悪をねらっている」と指摘しました。  
 「残り2日。いま行動しなければと、駆けつけました」と話すのは、奈良県生活と健康を守る会連合会の飯尾大彦事務局長です。  
 「地域では生活保護に対する悪いイメージから『生活保護改悪許すな』に変化している。この声を届け、廃案に追い込みたい」  
 障害者の生活と権利

を守る全国連絡協議会（障全協）の市橋博副会長は「最後まで廃案を求め世論を広げよう」と強調しました。  
 日本共産党の田村智子参院議員は国会情勢にふれ、「法案審議ができないまま、会期末にはたばたと採決することは認められない」と指摘。「生活保護制度のあり方を参院選の争点にして社会保障のあり方を問いかけるたたかいをしていきたい」と表明しました。

生活保護受給者へ

安倍首相へ

生活保護受給者へ

「現在でもギリギリの生活状態です。支給額が減り、それならいつでも死んだ方がましです。これ以上苦しめないでください。年寄りに生きる権利はないのではありませんか。75歳の男性が安倍晋三首相に出した手紙の一部です。山形県の一派遣村等なんでも相談会実行委員会（外塚功実行委員長）が24日、県庁内で記者会見し、17人から託された手紙を公開しました。

## 17人の手紙公開 山形・実行委

安倍内閣が進める生活保護法改悪に伴い、申請時の書類提出の義務付けや扶養義務の強化など、申請を受け付けずに追い返す「水際作戦」の強化が懸念されています。このため、同相談会実行委員会が、生活保護受給者に安倍首相あてて出す手紙を呼びかけていたものです。  
 30歳の女性は「父親から家庭内暴力を受け精神的に具合が悪くなり、通院中で

す。保護費を減らされたり、扶養義務などが厳しくされると、私のような人たちが苦しむ事になります。虐待が増える中、生活保護は絶対必要です」とつづいています。

記者会見で、外塚実行委員長は「不正受給者はごく一部。ほとんどの人が保護を受けるしか生きる道がなく、申し訳ないという気持ちでつつましく生きています」と述べました。

生活ギリギリです

もう苦しめないで